

[25]韓国研究センター年報

<https://hdl.handle.net/2324/7432733>

出版情報：韓国研究センター年報. 25, 2025-03-21. Research Center for Korean Studies, Kyushu University
バージョン：
権利関係：



2024 年度
韓国研究センター活動

【研究事業：「ポスト1965年体制」研究プロジェクト】

「『ポスト1965年体制』研究」共同研究会

2024年5月18日

2024年5月18日（土）に、韓国研究センターでは共同研究プロジェクト研究会を開催した。

2023年度から、韓国研究センターは研究事業「『世界史』の中の韓国：その構造変動に関する総合的研究」の一環として、九州韓国研究者フォーラムとの共同研究プロジェクト「『ポスト1965年体制』研究」を進めている。

本共同研究プロジェクトの一環として開催された今回の研究会では、木村貴（福岡女子大学）先生と緒方義広（福岡大学）先生の報告が行われた。

- ・日 時：2024年5月18日（土）
- ・会 場：博多バスターミナル貸しホール 第12会議室
- ・司 会：鄭敬娥（大分大学 教授）
- ・共 催：九州韓国研究者フォーラム
- ・後 援：韓国国際交流財団

□プログラム

- 第1報告 木村 貴（福岡女子大学 教授）
「韓国司法が語る『1965年体制』のほころび」
- 第2報告 緒方 義広（福岡大学 准教授）
「65年体制における移行期正義の可能性」

第1報告

木村 貴（福岡女子大学 教授）

- ・「韓国司法が語る『1965年体制』のほころび」

第1報告では、韓国の慰安婦判決と徴用工裁判の争点を中心に、日韓関係における対立（紛争）のアクター・アリーナ・争点の変容について改めて問い直した。判決の結果により「日韓関係」から「韓韓関係」への変容が見られ、キーパーソンとして新たに登場した司法府の役割が注目された。この状況に対して、日本がどのような立場で日韓関係の改善に取り組むべきかについて検討が行われた。



第2報告

緒方 義広（福岡大学 准教授）

・「65年体制における移行期正義の可能性」

第2報告では、「移行期正義」という新しい視点を通じて、日韓関係の検討可能性についての報告が行われた。報告では、「移行期正義」と「65年体制」について紹介した上で、1990年代から生じている日韓関係の変化を「移行期正義」を通じて説明した。勝ち負けの関係ではなく、共存・共栄の関係に向かうための日韓関係の「パラダイムの変化」について語る、意義のある報告が行われた。



各報告では、会場から様々な質問や意見が出され、活発な議論が繰り広げられた。本研究会は、65年体制から間もなく60周年を迎えるこの時点で、多角的に日韓関係の変容を検討することにより、今後の日韓関係に関する多様な視点を味わうことのできる研究会であった。

RCKS 九州大学 韓国研究センター
Research Center for Korean Studies, Kyushu University

研究事業
『世界史』の中の韓国
：その構造変動に関する総合的研究

韓国研究センター
X
九州韓国研究者フォーラム
共同研究 研究会

**POST
1965** 年体制

後援：韓国国際交流財団

問合せ先 九州大学韓国研究センター TEL 092-802-2027
Email: intlkrcks.uok@jimu.kyushu-u.ac.jp

2024. 5. 18 (土) 14:30~17:30
受付 14:00
博多パスターミナル貸しホール
(第12会議室)

プログラム

14:30 開会 (挨拶)

14:40 第1報告
木村 貴 (福岡女子大学 教授)

15:50 休憩

16:10 第2報告
緒方 義広 (福岡大学 准教授)

17:20 閉会

【研究事業：「ポスト1965年体制」研究プロジェクト】

「『ポスト1965年体制』研究」共同研究会

2024年6月15日

2024年6月15日（土）に、韓国研究センターでは共同研究プロジェクト研究会を開催した。

2023年度から、韓国研究センターは研究事業「『世界史』の中の韓国：その構造変動に関する総合的研究」の一環として、九州韓国研究者フォーラムとの共同研究プロジェクト「『ポスト1965年体制』研究」を進めている。

本共同研究プロジェクトの一環として開催された今回の研究会では、李信澈（アジア平和と歴史研究所 所長）先生と韓恵仁（アジア平和と歴史研究所 研究委員）先生の報告が行われた。

- ・日 時：2024年6月15日（土）
- ・会 場：JR博多シティ会議室（10F 会議室）
- ・司 会：緒方 義広（福岡大学 准教授）
- ・共 催：九州韓国研究者フォーラム
- ・後 援：韓国国際交流財団

□プログラム

第1報告 李 信澈（アジア平和と歴史研究所 所長）

「沖縄返還過程を通じた1965年体制の亀裂と限界—韓国政府を中心に—」

第2報告 韓 恵仁（アジア平和と歴史研究所 研究委員）

「『歴史運動』と1965年体制の亀裂」

第1報告

李 信澈（アジア平和と歴史研究所 所長）

- ・「沖縄返還過程を通じた1965年体制の亀裂と限界—韓国政府を中心に—」

第1報告では、沖縄返還問題を巡る当時の韓国政府の立場に焦点を当て、「1965年体制」を改めて再検討した。沖縄返還を巡り、米国や日本に対してさまざまな要望を伝えていた韓国政府は、最終的に条件付きで沖縄返還を認めることとなり、1965年体制の最後のパズルがはめられたと評した。その後、日本国内では民団と総連の競争が激化し、日韓両政府は、戦争・植民地被害問題を後回しにした。結果的に、不完全な土台の上に築かれた1965年体制は、冷戦と植民地主義の終焉とともに崩壊する構造となり、まさに今その時期を迎えているということが指摘された。



第2報告

韓 恵仁 (アジア平和と歴史研究所 研究委員)

・『歴史運動』と1965年体制の亀裂

第2報告では、「歴史問題」を議論する中で、「排除される被害者問題」に焦点を当て、1965年体制の変化について議論を進めた。排除された被害者であるサハリンに残された韓国人、日本軍慰安婦、自ら被害を証明できない軍人、徴用工、挺身隊を巡る問題は、日韓の歴史運動として広がり、日韓市民社会はお互いに協力しながら、裁判を通じた運動を展開した。この運動は、韓国政府の2005年「韓国真相究明委員会」まで繋がることになった。歴史運動の到達点と限界を探ることで、それが1965年体制にどのような影響を与えていたのかを明らかにする、貴重な報告であった。



各報告では、沖縄返還問題を巡る日本の市民運動の動向や、裁判を通じた結果に基づく政府の動向についてなど、会場から様々な質問や意見が出され、活発な議論が繰り広げられた。

RCKS 九州大学 韓国研究センター
Research Center for Korean Studies, Kyushu University

研究事業
『世界史』の中の韓国
その構造変動に関する総合的研究

韓国研究センター
X
九州韓国研究者フォーラム
共同研究 研究会

POST 1965 年体制

後援：韓国国際交流財団

問合せ先 九州大学韓国研究センター TEL 092-802-2027
Email int@rcks.uokajmu.kyushu-u.ac.jp

2024. 6. 15 (土) 14:30-17:30
受付 14:00
JR博多シティ会議室 (ICF会議室)

プログラム
14:30 開会 (挨拶)
14:40 第1報告
李信澈
(アジア平和と歴史研究所 所長)
15:50 休憩
16:10 第2報告
韓恵仁
(アジア平和と歴史研究所 研究委員)
17:20 閉会

【研究事業：「ポスト1965年体制」研究プロジェクト】

「『ポスト1965年体制』研究」共同研究会

2024年7月6日

2024年7月6日（土）に、韓国研究センターでは共同研究プロジェクト研究会を開催した。

2023年度から、韓国研究センターは研究事業「『世界史』の中の韓国：その構造変動に関する総合的研究」の一環として、九州韓国研究者フォーラムとの共同研究プロジェクト「『ポスト1965年体制』研究」を進めている。

本共同研究プロジェクトの一環として開催された今回の研究会では、出水薫（九州大学韓国研究センター長）先生と鄭敬娥（大分大学教育学部 教授）先生の報告が行われた。

- ・日 時：2024年7月6日（土）
- ・会 場：JR博多シティ会議室（10F 会議室）
- ・共 催：九州韓国研究者フォーラム
- ・後 援：韓国国際交流財団

□プログラム

- 第1報告 出水 薫（九州大学韓国研究センター長）
『『ポスト1965年体制』定義と時期区分について—日本語圏での概説書の検討』
- 第2報告 鄭 敬娥（大分大学 教授）
『『ポスト』1965年体制？韓国における新しい地域秩序構想
—盧武鉉政権の「東北アジア時代構想」と「均衡者」論を中心に』

第1報告

出水 薫（九州大学韓国研究センター長）

- ・『『ポスト1965年体制』定義と時期区分について—日本語圏での概説書の検討』

第1報告では、「ポスト1965年体制」を研究する上で、「1965年体制」と「ポスト」の意味について改めて再確認を行なった。日韓関係に関する書籍を通じた分析から、「ポスト1965年体制」を理解するためには、①画期としての90年代（垂直的・単線的関係から水平的・多元的關係へ）、②1965年体制の中核は「安保経協」、③国際関係への影響（冷戦の終結の影響と中国の台頭）、④国内的变化の影響（韓国の民主化と経



済発展・日韓における政権交代)、⑤市民社会・文化交流の拡大というポイントを認識することが重要であることが明らかになった。

第2報告

鄭敬娥 (大分大学 教授)

- ・『「ポスト」1965年体制？韓国における新しい地域秩序構想 — 盧武鉉政権の「東北アジア時代構想」と「均衡者」論を中心に』

第2報告では、「1965年体制」の揺らぎ、動揺、解体と言われる現状を考える際の疑問点について問題提起した。具体的には、原因と結果の関係、機能している部分と機能していない部分、「ポスト1965年体制」のあり方、二国間問題に限定して捉える点などについての議論が展開された。その手掛かりとして、盧武鉉政権の「東北アジア時代構想」と「均衡者」論を再検討することが試みられた。盧武鉉政権の多極体制への現状認識と、それに合わせた「均衡者論」は「仲介者」・「仲裁者」の役割として、今後の政権でもある程度継承されることになるかと指摘された。このような韓国政権の観点から1965年体制を検討すると、提起した問題についていくつかの仮説が見えてくるといことが提示された。これらの詳しい内容については、今後の共同研究の成果として発表される予定である。



各報告の質疑応答では、1965年体制に影響を与える中国の台頭、市民社会・ネット社会の登場、文化交流などの多様な要因が取り上げられ、「均衡者論」の成果と限界やモデル国の存在についても活発な議論が繰り広げられた。

RCKS 九州大学 韓国研究センター
Research Center for Korean Studies, Kyushu University

研究事業
『世界史』の中の韓国
：その構造変動に関する総合的研究

韓国研究センター
X
九州韓国研究者フォーラム
共同研究 研究会

POST 1965 年体制

後援：韓国国際交流財団

問合せ先 九州大学韓国研究センター TEL 092-802-2027
Email: intlcrcks.uok@jimu.kyushu-u.ac.jp

2024.7.6 (土) 14:30~17:30
受付 14:00
JR博多シティ会議室 (10F会議室)

プログラム
14:30 開会 (挨拶)
14:40 第1報告
出水 薫
(九州大学韓国研究センター長)
15:50 休憩
16:10 第2報告
鄭敬娥
(大分大学教育学部 教授)
17:20 閉会

【研究事業：教育学ブランチ研究会】

「1990年代以降の日韓の教育政策を世界的潮流の中に読み解く」

2024年8月24日

2024年8月24日（土）に、韓国研究センターでは教育学ブランチの研究会を開催した。

本研究会は、2023年度から遂行されている本センターの研究事業「『世界史』の中の韓国—その構造変動に関する総合的研究」における教育学ブランチプロジェクトの一環として開かれた。今回の研究会では、文部科学省の田中光晴先生と朝鮮大学の金龍燮（キム・ヨンソプ）先生による報告が行われた。

- ・日 時：2024年8月24日（土）
- ・会 場：Space of Station 会議室（11・12・13）
- ・司 会：元兼 正浩（九州大学大学院 人間環境学研究院 教授）
- ・後 援：韓国国際交流財団

□プログラム

第1報告 田中 光晴（文部科学省総合教育政策局 / 専門職）

「韓国の多文化化と教師教育—ユネスコアジア太平洋国際理解教育院に着目して」

第2報告 金 龍燮（朝鮮大学 教授）

「韓国の教育福祉政策の変遷過程に関する考察—金泳三政権と金大中政権を中心に」

第1報告

田中 光晴（文部科学省総合教育政策局 / 専門職）

- ・「韓国の多文化化と教師教育—ユネスコアジア太平洋国際理解教育院に着目して」

第1報告では、まず韓国の多文化化の現況を紹介し、多文化支援政策と多文化教育支援政策などの変化についての分析が行われた。韓国では2015年の仁川宣言以降「世界市民教育」概念が前面に出され、多文化の子どもを理解する、多文化の子どものための教育（欠陥ベース、deficit based）というモデルから、広く一般に文化多様性を理解する教育（資源ベース、asset based）へと転換されたことが指摘された。また、多文化教育支援の展開において国・地方・学校レベルでの展開を検討するなか、特にユネスコアジア太平洋国際理解教育院の役割に注目し、「世界市民教育」のグローバルアジェンダ設定過程についても詳しく論じられた。具体的には、APCEIUの世界市民教育先導教師事業や教育課程開発などについての詳細と多文化教育におけるそれらの役割と効果が報告された。最終的に、韓国の世界市民教育の推進に関しては、移住背景の子どもの増加により学校現場では現実問題として内外問わず多様な文化的背景に関する感受性を養う教育の必要性が高まったこと、国・地方レベルで進められる多文化教育支援計画の策定、ナショナルカリキュラム

の現場裁量権の拡大などが実践の枠を生み出し、国際機関との連携による実践者の育成を伴うことで、GCEDが推進されたことが指摘された。



第2報告

金 龍燮（朝鮮大学 教授）

・「韓国の教育福祉政策の変遷過程に関する考察—金泳三政権と金大中政権を中心に—」

本報告では、まず、教育福祉という概念の捉え方において異なる3つの立場—教育そのものがまさに福祉であるために教育と福祉を同じ概念として見なす立場、教育は社会福祉の実現の手だてであるために教育を社会福祉の一つとして考える立場、教育のための支援として教育福祉を見なす立場—が紹介された。教育福祉の概念についての合意がまだ成り立っていない状況で生じる問題点を提起し、それに対する対応の端緒を探るために、金泳三政権と金大中政権の試みについての議論が展開された。金泳三政権期には教育を含めて社会全体に改革を打ち出すなか、教育福祉という用語が明確になり、教育福祉に関わる多様な政策が推進されることとなった。初めての与野党の政権交代を成し遂げた金大中政権では、通貨危機による当時の所得不平等の深化と社会の両極化などの社会問題に対する解決策の一つとして「生産的福祉」が打ち出された。そのなか、機会保証と質の高い教育サービスを社会弱者に提供することが重要な争点となった。本報告では、それらの政権における政策推進のありようについての詳細な分析と共に、それらの政策が避けられなかった限界点なども扱われた。



【国際学術大会】

「日韓市民連帯の過去と現在」

2024年9月28日

九州韓国研究者フォーラムとアジアの平和と歴史研究所が開催する国際学術大会に今年は九州大学韓国研究センターも参加して共催した。3回目になる今回の国際学術大会は「日韓市民連帯の過去と現在」というテーマで開かれた。

- ・日 時：2024年9月28日（土）
- ・会 場：博多シティ9階会議室（2）
- ・総合司会：緒方 義広（福岡大学 准教授）
- ・共 催：九州韓国研究者フォーラム、アジアの平和と歴史研究所

□プログラム：

13：30～13：50 開会・挨拶

- ・開会の辞：木村 貴（九州韓国研究者フォーラム 副代表）
- ・歓迎の辞：出水 薫（九州大学韓国研究センター センター長）
- ・共催挨拶：李 信澈（イ・シンチョル）（アジアの平和と歴史研究所 所長）

13：50～15：50 第1部

司会 池 直美（アジアの平和と歴史研究所・北海道大学）

- ・発表1 大和 裕美子（九州共立大学）
「長生炭鉱水没事故をめぐる市民の実践—追悼碑建立後の10年—」
- 討 論：吉 倫亨（キル・ユニョン）（ハンギョレ記者）
- ・発表2 朴 星奇（パク・ソンギ）（京畿河南高等学校）
「韓日教科書交流20年の進行と拡張」
- 討 論：吳 獨立（九州大学韓国研究センター）

15：50～17：50 第2部

司会 木村 貴（福岡女子大学）

- ・発表3 山口 祐香（神戸大学）
「70年代市民の〈歴史研究〉と日韓連帯」
- 討 論：韓 恵仁（ハン・ヘイン）（アジアの平和と歴史研究所）
- ・発表4 李 信澈（アジアの平和と歴史研究所）
「韓中日歴史対話20年の成果と課題」
- 討 論：出水 薫（九州大学）

17：50 閉会

第1部

司会 池直美（アジアの平和と歴史研究所・北海道大学）

・発表1 大和裕美子（九州共立大学）

「長生炭鉱水没事故をめぐる市民の実践—追悼碑建立後の10年—」

討 論：吉 倫亨（キル・ユニョン）（ハンギョレ記者）

・発表2 朴星奇（パク・ソンギ）（京畿河南高等学校）

「韓日教科書交流20年の進行と拡張」

討 論：呉 獨立（九州大学韓国研究センター）



第1部では、大和裕美子先生（九州共立大学）の報告「長生炭鉱水没事故をめぐる市民の実践—追悼碑建立後の10年—」と、朴星奇先生（京畿河南高等学校）の報告「韓日教科書交流20年の進行と拡張」が発表された。いずれの報告も、長年にわたって続けられた市民活動を振り返り、その到達点と限界を明らかにする内容を中心に行われた。

討論や質疑応答では、大和裕美子先生の報告に対し、市民活動における行政の関わり方・役割について、他自治体の事例を含め、多角的な視点から検討が行われた。朴星奇先生の報告に対しては、歴史認識の多様性を認めつつも、そうなった場合に異なる認識の間隙は埋める必要があるのか、必要があれば、どのようにすれば良いのかなどについての議論が展開された。

第2部

司会 木村 貴（福岡女子大学）

・発表3 山口 祐香（神戸大学）

「70年代市民の〈歴史研究〉と日韓連帯」

討 論：韓 恵仁（ハン・ヘイン）（アジアの平和と歴史研究所）

・発表4 李 信澈（アジアの平和と歴史研究所）

「韓中日歴史対話20年の成果と課題」

討 論：出水 薫（九州大学）



第2部では、山口祐香先生（神戸大学）による報告「70年代市民の〈歴史研究〉と日韓連帯」と、李信澈先生（アジアの平和と歴史研究所）による報告「韓中日歴史対話20年の成果と課題」が発表された。両報告ともに、歴史に関わる日韓市民連帯というテーマに基づき、日本における朝鮮史研究や教科書問題を含めた歴史教育における国家を超えた市民連帯についての検討が行われた。

討論および質疑応答では、山口祐香先生の報告に対し、今後注目を集める研究分野であることが確認されるとともに、「朝鮮史」の内実（韓国・北朝鮮・在日朝鮮人、民主運動史と朝鮮史の区分など）について議論が深められた。また、李信澈先生の報告に対しては、国家を超えた活動が各国の市民連帯にどのように影響を与え、今後どのように運動を展開していくべきかについての検討が行われた。特に、これからは、「国民」という枠を超えた「世界市民」としての連帯を基盤とする必要性が論じられた。



九州韓国研究者フォーラム & アジアの平和と歴史研究所 第3回 国際学術大会

日韓市民連帯の過去と現在

第1部 司会：池 直美（北海道大学）

- 長生炭鉱水没事故をめぐる市民の実践
発表：大和 裕美子（九州共立大学）
- 韓日教科書交流20年の進行と拡張
発表：朴 星奇（京畿河南高等学校）

討論

吉 倫亨
（ハンギョレ新聞社）

呉 獨立
（九州大学韓国研究センター）

第2部 司会：木村 貴（福岡女子大学）

- 70年代市民の〈歴史研究〉と日韓連帯
発表：山口 祐香（神戸大学）
- 韓中日歴史対話20年の成果と課題
発表：李 信澈（アジアの平和と歴史研究所）

討論

韓 恵仁
（アジアの平和と歴史研究所）

出水 薫
（九州大学韓国研究センター）

- 総合司会：緒方 義広（福岡大学）

※ 逐次通訳提供

2024. 9. 28 (土)

13:30~17:40
開場 13:00

JR博多シティF9会議室 2

共催

九州韓国研究者フォーラム

아시아평화와 역사연구소
Asia Peace & History Institute

RCKS 九州大学
韓国研究センター
Research Center for Korean Studies, Kyushu University

※本事業は公益財団法人日韓文化交流基金の助成を受けています。

【研究事業：文学 / 言語学ブランチ講演会】

九州大学韓国研究センター 韓国語学講演会 (黒島規史先生講演会)

「韓国語と日本語の似ているところ： 古典語、方言、類型論の観点から」

2024年10月10日

九州大学韓国研究センターでは2024年10月10日（木）に、熊本学園大学の黒島規史先生（記述言語学、韓国語学、メエ語）をお迎えして、講演会「韓国語と日本語の似ているところ：古典語、方言、類型論の観点から」を実施した。

「似ている」と見做されがちな日本語と韓国語の文法を、世界のさまざまな言語や方言の中に位置づけ、「本当に似ているのか」をめぐって具体例を提示しつつ仔細に検証していくスタイルの講演で、基本的な話題からやや専門性の高いトピックに至るまで、興味深い論点が数多く示された。

- ・日 時：2024年10月10日（木）
- ・場 所：九州大学伊都キャンパス センター1号館1502教室
- ・講演者：黒島 規史先生（熊本学園大学外国語学部 准教授）
- ・司 会：辻野 裕紀（韓国研究センター副センター長）
- ・主 催：九州大学韓国研究センター
- ・後 援：韓国国際交流財団

□講演者プロフィール

黒島 規史（くろしま・のりふみ）

東京外国語大学博士後期課程修了。2020年に熊本学園大学講師として着任、現在は同大学准教授。専門は言語学で、特に韓国語文法の記述的研究。



主催/九州大学韓国研究センター
後援/韓国国際交流財団

九州大学韓国研究センター 韓国語学講演会

(黒島規史先生講演会)

九州大学韓国研究センターでは2024年10月10日(木)に、熊本学園大学の黒島規史先生をお招きして、韓国語学に関する講演会を開催します。本学学生、教職員はもちろん、学外の方々の参加も歓迎いたします。

講演

韓国語と日本語の似ているところ：
古典語、方言、類型論の観点から

2024年10月10日(木) 10時30分～12時
九州大学伊都キャンパス センター1号館1502教室

講師 黒島規史先生(熊本学園大学准教授)

司会 辻野裕紀(九州大学韓国研究センター副センター長)

事前申込不要

入場無料

黒島 規史 先生プロフィール

黒島 規史 先生プロフィール

東京外国語大学博士後期課程修了。
2020年に熊本学園大学講師として着任、現在は同大学准教授。
専門は言語学で、特に韓国語文法の記述的研究。

問合せ先:九州大学韓国研究センター

TEL:092-802-2027 Email:intlkrcks.uok@jimu.kyusyu-u.ac.jp

※本講演会は、韓国国際交流財団による助成を受け現在進行中の研究事業「『世界史』の中の韓国-その構造変動に関する総合的研究」の一環として開催されます。

【研究事業：「ポスト1965年体制」研究プロジェクト】

「『ポスト1965年体制』研究」共同研究会

2024年10月19日

2024年10月19日（土）に、韓国研究センターでは共同研究プロジェクト研究会を開催した。

2023年度から、韓国研究センターは研究事業「『世界史』の中の韓国：その構造変動に関する総合的研究」の一環として、九州韓国研究者フォーラムとの共同研究プロジェクト「『ポスト1965年体制』研究」を進めている。

本共同研究プロジェクトの一環として開催された今回の研究会では、山田良介（九州国際大学）先生と平井一臣（鹿児島大学）先生の報告が行われた。

- ・日 時：2024年10月19日（土）
- ・会 場：JR博多シティ会議室（10F 会議室）
- ・司 会：緒方 義広（福岡大学 准教授）
- ・共 催：九州韓国研究者フォーラム
- ・後 援：韓国国際交流財団

□プログラム

- 第1報告 山田 良介（九州国際大学 教授）
「日韓会談後の地域における記録・掘りおこし活動」
- 第2報告 平井 一臣（鹿児島大学 名誉教授）
「65年体制と日韓社会運動」

第1報告

山田 良介（九州国際大学 教授）

- ・「日韓会談後の地域における記録・掘りおこし活動」

第1報告では、「1965年体制」以降の「戦争責任」に関する日本国内での認識の変化についての報告が行われた。特に本報告では、北九州と北海道という二つの地域に残されている地域記録を中心に検討が行われた。その地域では、「戦争責任」に関して考え直す活動が行われるようになったことが指摘された。日本国内では、一般的に、沖縄返還問題やベトナム戦争に対する関心が比較的高かったのに対し、戦争責任や植民地問題については、日本人の戦争体験の一部として語



られることが多く、韓国に対する関心はあまり高くなかったとされている。しかし、日韓問題、ベトナム戦争、沖縄返還に関する問題は個別の事象ではなく、全て「戦争責任」という枠組みの中で語られるべきではなかったかという意見が示された。その結果、日本では、不可分の関係にある「加害」と「被害」の記憶が分離されたまま現在に至ってしまった点が指摘された。

第2報告

平井 一臣（鹿児島大学 名誉教授）

・「65年体制と日韓社会運動」

第2報告では、「① 65年体制の発足が社会運動にどのような影響を与えたのか — 65年以前と以降の違い」と、「② 65年体制成立以降の日韓の政治対立の変容（特に韓国）が社会運動にどのような影響を与えたのか」（1960年代後半から1970年代）という問題意識から報告が行われた。結論として、65年体制が日韓社会運動に与えた影響は、促進要因と阻害要因の二面性を持っている点が指摘された。促進要因としては、国交正常化に伴い、両国間の関係が広範に拡大し、民間だけではなく、政府間・議員間、自治体間、様々なルートを通じて交流が行われた点が挙げられた。一方で、阻害要因としては、韓国の独裁政権下での監視と弾圧、情報統制が強まり、市民社会レベルでの認識の差が広がってしまった点（「反共主義」に対する温度差や、「過去」と「現在」に対する認識の差）が挙げられた。



各報告の質疑応答では、「戦争責任」に関する地域の取り組みにおいて在日韓国・朝鮮人がどのように関わっていたのか、また北九州と北海道という地域の特殊性から何が読み取れるのか、さらに当時の北朝鮮と韓国に対する認識の差が与えた影響はなかったのかなどについて意見交換が行われた。また、現在よく使われている「日韓市民連帯」という表現に関して、いつから日本と韓国の市民団体の関係性が変化し今に至っていたのかについても議論された。今回の研究会は「1965年体制」と「戦争責任」の認識変化、そしてそれらと市民運動との関係について、理解を深めることができる時間であった。

RCKS 韓国研究センター
Research Center for Korean Studies, Kyushu University

研究事業
『世界史』の中の韓国
：その構造変動に関する総合的研究

韓国研究センター
X
九州韓国研究者フォーラム
共同研究 研究会

POST 1965 年体制

後援：韓国国際交流財団

問合せ先 九州大学韓国研究センター TEL 092-802-2027
Email: info@rckcs.uokajimu.kyushu-u.ac.jp

2024. 10. 19 (土) 14:30~17:30
受付 14:00
JR博多シティ会議室 (10F会議室)

プログラム

14:30 開会 (挨拶)

14:40 第1報告
山田 良介
(九州国際大学 教授)

15:50 休憩

16:10 第2報告
平井 一臣
(鹿児島大学 教授)

17:20 閉会

【研究事業：文学 / 言語学ブランチ講演会】

翻訳家・古川綾子先生講演会 「韓国文学の魅力」

2024年10月26日

九州大学韓国研究センターでは2024年10月26日（土）に、翻訳家の古川綾子先生をお迎えして、講演会「韓国文学の魅力」を実施した。

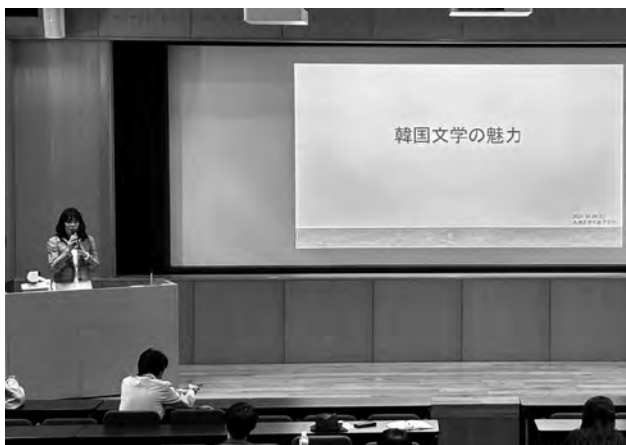
今回の講演会では、今年度のノーベル文学賞を受賞した韓国人作家ハン・ガンの本の翻訳に関する話を含めて、最近日本でも注目されている韓国文学の翻訳事情及び、韓国文学の翻訳者としてのご自分の今までの歩みなどについて興味深い話が展開された。また、記憶の記録としての文学、社会の正しさを問う文学の使命感、社会問題をテーマにしながら個人の物語を積み上げていく文学としての韓国文学の特徴を示しながら、韓国文学の魅力についても興味深い論点が提示された。

- ・日 時：2024年10月26日（土）
- ・場 所：九州大学西新プラザ大会議室
- ・講演者：古川 綾子先生（韓国文学翻訳家）
- ・司 会：辻野 裕紀（韓国研究センター副センター長）
- ・主 催：九州大学韓国研究センター
- ・後 援：韓国国際交流財団

□講演者プロフィール

古川 綾子（ふるかわ・あやこ）

神田外語大学韓国語学科卒業。延世大学教育大学院韓国語教育科修了。神田外語大学講師。NHK ラジオステップアップハングル講座 2021年7-9月期『K文学の散歩道』講師を務める。主な訳書にハン・ガン『そっと 静かに』（クオン）、キム・エラン『外は夏』、キム・ヘジン『娘について』、チェ・ウニョン『わたしに無害なひと』（いづれも亜紀書房）、チョ・ナムジュ『ソヨンドン物語』（筑摩書房）、イム・ソルア『最善の人生』（光文社）、チョン・ハナ『親密な異邦人』（講談社）など。ユン・テホ『未生 ミセン』（講談社）で第20回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞受賞。



主催:九州大学韓国研究センター 後援:韓国国際交流財団

翻訳家・古川綾子先生講演会 韓国文学の魅力

2024 10/26 土 15時~17時
(開場:14時30分)
九州大学西新プラザ 大会議室

定員
100名
先着順

九州大学韓国研究センターでは2024年10月26日(土)に、
翻訳家の古川綾子先生をお招きして、講演会「韓国文学の魅力」を開催します。

講師 강사
古川綾子先生
韓国文学翻訳家

司会 사회
辻野裕紀
九州大学韓国研究センター
副センター長

申込先 URL若しくはQRコードよりお申し込みください

URL:<https://forms.gle/dnXXC7RSFmMhBR5n9>



ふるかわ あやこ

古川綾子先生 プロフィール

神田外語大学韓国語学科卒業。延世大学教育大学院韓国語教育科修了。神田外語大学講師。NHKラジオステップアップハンゲル講座2021年7-9月期「K文学の散歩道」講師を務める。主な訳書にハン・ガン「そっと 静かに」(クオン)、キム・エラン「外は夏」、キム・ヘジン「娘について」、チェ・ウニョン「わたしに無害なひと」(いずれも亜紀書房)、チョ・ナムジュ「ソヨンドン物語」(筑摩書房)、イム・ソルア「最善の人生」(光文社)、チョン・ハナ「親密な異邦人」(講談社)など。ユン・テホ「未生 ミセン」(講談社)で第20回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞受賞。

問合せ先:九州大学韓国研究センター
TEL:092-802-2027
E-mail:intlkrcks.uok@jimu.kyusyu-u.ac.jp

本講演会は、韓国国際交流財団による助成を受け現在進行中の研究事業「世界史」の中の韓国:その構造変動に関する総合的研究の一環として開催されます。

【研究事業：「ポスト1965年体制」研究プロジェクト】

国際合同研究会

「『ポスト1965年体制』研究—日韓関係の過去と現在—」

2024年10月29日

九州大学韓国研究センターでは2024年10月29日（火）に、ソウル大学で国際合同研究会を開催した。ソウル大学校日本研究所と同大学の国際学研究所、そして九州韓国研究者フォーラムと共同で開催した今回の研究会は、2023年度から進められている本センターの研究事業「『世界史』の中の韓国：その構造変動に関する総合的研究」の下位プロジェクトである「『ポスト1965年体制』研究」の一環として行われた。

- ・日 時：2024年10月29日（火）
- ・会 場：ソウル大学国際大学院 GS Room（ソウル大学140号館）
- ・共 催：九州韓国研究者フォーラム、ソウル大学日本研究所、ソウル大学国際学研究所
- ・後 援：韓国国際交流財団
- ・助 成：公益財団法人日韓文化交流基金

□プログラム：

- 13：30 開会・挨拶（司会：チョ・クァンザ [ソウル大学校日本研究所 副教授]）
祝辞：キム・テギョン（ソウル大学校国際学研究所 所長）
挨拶：ナム・ギジョン（ソウル大学校日本研究所 教授）
出水 薫（九州大学韓国研究センター長）
- 13：40 第1セッション（司会：鄭 敬娥・大分大学 教授）
- (1) 出水 薫（九州大学韓国研究センター長）
「『ポスト1965年体制』定義と時期区分について—日本語圏での概説書の検討」
- (2) キム・ヘジュ（ソウル大学校国際大学院 博士課程）
「日韓海洋境界の画定・再編の展望—日韓漁業協定及び日韓大陸棚共同開発協定を中心に」
討論：パク・テギョン（ソウル大学校国際大学院 教授）
木村 貴（福岡女子大学 教授）
- 15：20 休憩
- 15：40 第2セッション（司会：ナム・ギジョン [ソウル大学校日本研究所 教授]）
- (1) 山口 祐香（神戸大学 特命助教）
「古代史を通じた連帯の模索と限界：雑誌『日本の中の朝鮮文化』の実践から」
- (2) キム・ヒョジン（ソウル大学校日本研究所 助教授）
「韓国における日本オタク文化の受容と争点：「右翼コンテンツ論争」をめぐる」
討論：パク・チワン（ソウル大学校国際大学院 教授）
緒方 義広（福岡大学 准教授）
- 17：20 閉会
挨拶：パク・テギョン（ソウル大学校国際大学院 教授）
平井 一臣（九州韓国研究者フォーラム 代表）

「日韓関係の過去と現在」をメインテーマとして行われた本研究会では、1965年体制とポスト1965年体制をめぐる多彩な議論はもちろん、中央中心的な政治関係を越えて文化、市民社会、地方を視野に入れた日韓関係の新たなあり方についても興味深く、示唆に富んだ議論が展開された。

また、研究会の前日にはソウル大学日本研究所と国際学研究所を訪問し、日韓基本条約60周年を迎える来年度の共同研究会開催を含め、本センターとの今後の協力についても建設的な意見交換が行われた。



포스트 1965

「포스트 1965년 체제」연구 — 한일관계의 과거와 현재

2024년 10월 29일 13:00-17:30
서울대학교 국제대학원 GS룸

언어 | 일본어 (일부 한국어)
문의 | 일본연구소 880-8503 ijs@snu.ac.kr

13:00 개회

사회 | 조관자 서울대 일본연구소 부교수
개회사 | 남기정 서울대 일본연구소 소장
개회사 | 이즈미 가오루 규슈대 한국연구소장
환영사 | 김태균 서울대 국제대학원 교수

13:40 제1세션

사회 | 정경아 오이타데 교수

발표 | 이즈미 가오루 규슈대 한국연구소장
「ポスト1965年体制」定義と時期区分について
——日本語圏での概説書の検討
'포스트 1965년 체제'의 정의와 시기구분에 대해 — 일본이권 개실서 검토를 중심으로

발표 | 김혜주 서울대 국제대학원 박사과정
한일 해양경계 획정 재편 전망
——한일어업협정 및 한일대륙붕공동개발협정을 중심으로
日韓海洋境界画定再編の展望：日韓漁業協定及び日韓大陸棚共同開発協定を中心に

토론 | 박태균 서울대 국제대학원 교수
기무라 다카시 후쿠오카이제대 교수

15:20 휴식

古代史を通じた連帯の模索と限界
——雑誌『日本の中の朝鮮文化』の実践から
고대사를 통한 연대의 모색과 한계 — 잡지 '일본 속의 조선문화'의 실천으로부터

韓国における日本オタク文化の受容と争点
——「右翼コンテンツ論争」をめぐって
한국에서의 일본오타쿠문화 수용과 쟁점 — 우익콘텐츠쟁점을 둘러싸고

제2세션 15:40

사회 | 남기정 서울대 일본연구소 소장

발표 | 아마구치 유카 고베대 국제협력연구과 특임조교

발표 | 김효진 서울대 일본연구소 조교수

토론 | 박지환 서울대 국제대학원 부교수
오가타 요시히로 후쿠오카대 조교수

폐회 17:20

사회 | 조관자 서울대 일본연구소 부교수
폐회사 | 박태균 서울대 국제대학원 교수
폐회사 | 히라이 가즈오미 규슈한국연구소포럼 대표

ポ ス ト 19 65

공동주최 | 규슈대학한국연구소 | 규슈한국연구소포럼 | 서울대학교 일본연구소 | 서울대학교 국제대학원 | 후원 | 한국국제교류재단 조성 | 공익재단법인 일한문화교류기금 公益財団法人 日韓文化交流基金

【九州大学アジアウィーク企画講演会】

「K-POP の時代を語る」

2024年11月7日

九州大学韓国研究センターでは2024年11月7日（木）に、『K-POP 現代史』の著者、山本浄邦（K-POP 研究者）先生をお招きし、講演会「K-POP の時代を語る」を開催した。本講演会は九州大学アジアウィーク企画の一環として、本センターと九州韓国研究者フォーラムの共催で開催された。

- ・日 時：2024年11月7日（木）
- ・会 場：共創館本館カンファレンス7号（共創館本館 地下2階）
- ・講演者：山本 浄邦先生（K-POP 研究者、『K-POP 現代史』著者）
- ・共 催：九州韓国研究者フォーラム
- ・後 援：韓国国際交流財団

□プログラム：

- 18：30 開会
 18：40 講演
 講師：山本 浄邦（K-POP 研究者、『K-POP 現代史』著者）
 19：40 鼎談
 山本 浄邦（K-POP 研究者、『K-POP 現代史』著者）
 加藤 恭子（KBC ゼネラルアナウンサー）
 出水 薫（九州大学韓国研究センター長）
 20：20 閉会

□講演 / 鼎談者プロフィール

山本浄邦（やまもと・じょうほう）

1973年大阪市生まれ。K-POP 研究者。博士（文学）。1995年、大学時代に韓国を旅行し K-POP に出会う。以降 K-POP を追いつけている。韓国学中央研究院招聘研究員として2014年に渡韓、同研究院で2年間の研究生活ののち高麗大学校亜細亜問題研究所招聘研究員、外務省専門調査員（在釜山日本国総領事館勤務）などを経て2019年帰国。現在、立命館大学授業担当講師などを務めつつ、K-POP の専門家としてしばしばメディアに登場。専門は韓国学、朝鮮近現代史、日韓交流史。『K-POP 現代史——韓国大衆音楽の誕生から BTS まで』（単著、ちくま新書、2023年）、『明洞——街角の文化史』（第一著者、韓国学中央研究院出版部、2019年）ほか日本と韓国で複数の著書がある。

加藤恭子（かとう・きょうこ）

KBC ゼネラルアナウンサー

1991年九州朝日放送に入社、アナウンサーとしてテレビ・ラジオで様々な番組を担当。2019年、アナウンス部長。2022年、KBC ゼネラルアナウンサー。

現在、KBC アサデス、ラジオ（水）、ヒルマニ（木）などを担当。

また K-POP 好きが高じて自ら企画した「キテマス。K」（KBC ラジオ土曜夜 10 時～）にて韓国情報を発信中。



「K-POPの時代を語る」という題名で行われた山本浄邦先生の講演では、「K-POPの時代とは何だったのか」という問題定義のもとでK-POPの時代を振り返り、その意義と影響についての議論が展開された。韓国の近現代史をたどりながら、K-POP誕生の背景とK-POPが今まで歩んできた軌跡とともに、K-POPが持っている特徴と意義、そしてこれからの課題などについて興味深い話が続けられた。



山本先生の講演に続いて、KBCゼネラルアナウンサー加藤恭子氏と本センターの出水薫センター長が加わって行われた鼎談では、K-POPを含め韓国との個人的なかかわりについての話から日韓文化交流や市民交流、そして福岡という地域から見る日韓交流のあり方などについて多彩な意見が示された。



主催：九州大学韓国研究センター、九州韓国研究者フォーラム

九州大学アジアウィーク企画 K-POPの時代を語る

2024年11月7日(木) 18:30~20:30
(開場18:00)

共創館本館カンファレンス7号

(共創館本館(福岡市中央区渡辺通)地下2階)

定員
70名
(先着順)

プログラム

- 18:30 開会
18:40 講演
講師:山本 浄邦 (K-POP研究者、「K-POP現代史」著者)
19:40 鼎談
山本 浄邦 (K-POP研究者、「K-POP現代史」著者)
加藤 恭子 (KBCゼネラルアナウンサー)
出水 薫 (九州大学韓国研究センター長)
20:20 閉会

申込先

URL若しくはQRコードよりお申し込みください
URL: <https://forms.gle/CS6EZDZvauuqko6a7>



問合せ先

九州大学韓国研究センター
TEL:092-802-2027
E-mail: intlkrcks.uok@jimu.kyusyu-u.ac.jp

講師プロフィール



やまもと じょうほう
山本 浄邦

1973年大阪市生まれ。K-POP研究者。博士(文学)。1995年、大学時代に韓国を旅行しK-POPに出会う。以降K-POPを追い続けている。韓国学中央研究院招聘研究員として2014年に渡韓、同研究院で2年間の研究生生活ののち高麗大学校亜細亜問題研究所招聘研究員、外務省専門調査員(在釜山日本国総領事館勤務)などを経て2019年帰国。現在、立命館大学授業担当講師などを務めつつ、K-POPの専門家としてしばしばメディアに登場。専門は韓国学、朝鮮近現代史、日韓交流史。「K-POP現代史——韓国大衆音楽の誕生からBTSまで」(単著、ちくま新書、2023年)、『明洞——街角の文化史』(第一著者、韓国学中央研究院出版部、2019年)ほか日本と韓国で複数の著書がある。

鼎談



かとう きょうこ
加藤 恭子

KBCゼネラルアナウンサー
1991年九州朝日放送に入社、アナウンサーとしてテレビ・ラジオで様々な番組を担当。2019年、アナウンス部長。2022年、KBCゼネラルアナウンサー。
現在、KBCアサデス、ラジオ(水)、ヒルマニ(木)などを担当。またK-POP好きが高じて自ら企画した「キテマス。K」(KBCラジオ土曜夜10時~)にて韓国情報を発信中。

【研究事業：「ポスト1965年体制」研究プロジェクト】

九州大学アジアウィーク企画シンポジウム 「韓国におけるメディアと人権」

2024年11月9日

九州大学韓国研究センターでは2024年11月9日（土）に、シンポジウム「韓国におけるメディアと人権」を開催した。本シンポジウムは、韓国研究センターの研究事業「『世界史』の中の韓国：その構造変動に関する総合的研究」の一環として進められている共同研究プロジェクト「『ポスト1965年体制』研究」および、九州大学アジアウィーク企画の一環として、本センターと九州韓国研究者フォーラム、九州大学アジア・オセアニア研究教育機構社会クラスターとの共催で開催された。

- ・日 時：2024年11月9日（土）
- ・会 場：JR博多シティ会議室 9階会議室（4）
- ・司 会：緒方 義広（福岡大学 准教授）
- ・共 催：九州韓国研究者フォーラム
九州大学アジア・オセアニア研究教育機構社会クラスター
- ・後 援：韓国国際交流財団

□プログラム：

- | | |
|-------|--|
| 14：00 | 開会・挨拶 |
| 14：15 | 第1報告 イム・ジェソン（弁護士・社会学者）
「厳罰主義における韓国のメディアと人権
－韓国社会における犯罪関連の個人情報公開をめぐる最近の論争を中心に」 |
| 15：10 | 第2報告 コ・ギョンテ（ハンギョレ新聞記者）
「韓国の過去事整理と人権、そしてベトナム戦争」 |
| 16：00 | 休憩 |
| 16：10 | 討論
平井 一臣（鹿児島大学 名誉教授）
木村 貴（福岡女子大学 教授） |
| 17：20 | 閉会・挨拶 |

本シンポジウムでは、韓国で人権問題に関して活発に活動している弁護士イム・ジェソン氏とコ・ギョンテ記者（ハンギョレ新聞）をお招きし、韓国の人権問題におけるメディアの関わり方、そして人権問題をめぐる現在の状況及びその限界と展望などについて貴重な話をいただいた。お二人の報告に対する討論では鹿児島大学の平井一臣先生と福岡女子大学の木村貴先生によるコメントを含め、当日参加した方々との興味深く、多彩な議論が展開された。



KYUSHU University
ASIA WEEK
SYMPOSIUM

主催

RCKS 九州大学 韓国研究センター
Research Center for Korean Studies, Kyushu University

共催

九州韓国研究者フォーラム
九州大学アジア・オセアニア
研究教育機構社会クラスター

後援

韓国国際交流財団

韓国における メディアと人権 MEDIA 인권

■ 韓国の過去事整理と人権、そしてベトナム戦争

コ・ギョンテ(고경태) (ハンギョレ新聞記者)

■ 厳罰主義における韓国のメディアと人権:

韓国社会における犯罪関連の個人情報公開をめぐる最近の論争を中心に
イム・ジェソン(임재성) (弁護士)

■ 討論

平井 一臣 (鹿児島大学 名誉教授)

木村 貴 (福岡女子大学 教授)

総司会：緒方義広 (福岡大学准教授)

※ 逐次通訳提供

2024. 11. 9 (土) 14:00~17:30 開場 13:30
JR博多シティ9F 会議室4



- 本シンポジウムは、韓国国際交流財団による助成を受け現在進行中の研究事業「『世界史』の中の韓国：その構造変動に関する総合的研究」の一環として開催されます。
- 問合せ先 TEL：092-802-2027 E-mail：intlkrcks.uok@jimu.kyushu-u.ac.jp

【研究事業：文学 / 言語学ブランチ講演会】

小倉紀蔵先生講演会

「世界哲学としての韓国美」

2024年11月23日

九州大学韓国研究センターでは2024年11月23日（土）に、小倉紀蔵先生（京都大学教授）をお迎えして、講演会「世界哲学としての韓国美」を実施した。

本講演では、支配的ヘゲモニーの世界観の優越を糾弾する「世界哲学」という観点を披露しながら、「大文明の哲学」「人間中心の哲学」「理性中心の哲学」「男の哲学」などの解体、そして「西洋対非西洋」という図式の解体を狙う小倉先生問題意識が丁寧に紹介された。そのような「世界哲学」の観点を踏まえて、東アジアの中の日本と韓国の思想・哲学を比較し、それぞれの特徴について深く鋭い議論が展開された。

特に実体系と非実体系に関わる3つの存在様態を示し、群島文明や半島文明においての特徴として、〈第三〉の存在様態（あいだ性）を保全し発展させる点を挙げるができる、ということが強調された。また、日本の美意識と韓国の美意識についての言語的な表現、そしてそれに根ざしている根源的な意味の地平と美意識のありようなどに関してもきわめて興味深い話を伺うことができる講演であった。

- ・日 時：2024年11月23日（土）
- ・場 所：JR博多シティ10階会議室
- ・講演者：小倉 紀蔵先生（京都大学大学院人間・環境学研究科 教授）
- ・司 会：辻野 裕紀（韓国研究センター副センター長）
- ・主 催：九州大学韓国研究センター
- ・後 援：韓国国際交流財団

□講演者プロフィール

小倉 紀蔵（おぐら・きぞう）

東京大学ドイツ文学科卒業。ソウル大学校哲学科博士課程単位取得（東洋哲学専攻）。東海大学助教授を経て2006年4月より京都大学准教授、2012年4月より京都大学教授。外務省「日韓友情年2005」実行委員、「日韓交流おまつり」実行委員、「日韓文化交流会議」委員、現代韓国朝鮮学会会長、比較文明学会副会長などを歴任した。主な著書に『韓国は一個の哲学である』『歴史認識を乗り越える』（以上、講談社）、『心で知る、韓国』（岩波書店）、『創造する東アジア 文明・文化・ニヒリズム』『〈いのち〉は死なない』（以上、春秋社）、『朱子学化する日本近代』『北朝鮮とは何か』（以上、藤原書店）、『入門 朱子学と陽明学』『新しい論語』『朝鮮思想全史』『京都思想逍遥』『弱いニーチェ』（以上、筑摩書房）、『群島の文明と大陸の文明』『韓国の行動原理』（以上、PHP研究所）などがある。



主催：九州大学韓国研究センター 後援：韓国国際交流財団

小倉紀蔵先生講演会 世界哲学 としての 韓国美

2024年11月23日 土

19時～21時(開場:18時30分)

JR博多シティ10階会議室

講師 小倉 紀蔵 先生
(京都市立大学大学院人間・環境学研究所教授)

司会 辻野 裕紀
(九州大学韓国研究センター副センター長)

申込先
URL若しくは
QRコードよりお申し込みください
<https://forms.gle/AmhjeaL8SrEYA1zs9>

定員
70名



問合せ先:
九州大学韓国研究センター
TEL: 092-802-2027
Email: intlkrcks.uok@jimu.kyusyu-u.ac.jp

※本講演会は、韓国国際交流財団による助成を受け現在進行中の研究事業「『世界史』の中の韓国:その構造変動に関する総合的研究」の一環として開催されます。

プロフィール

おぐら きぞう
小倉 紀蔵 先生

東京大学ドイツ文学科卒業。ソウル大学校哲学科博士課程単位取得(東洋哲学専攻)。東海大学助教授を経て2006年4月より京都大学准教授、2012年4月より京都大学教授。外務省「日韓友情年2005」実行委員、「日韓交流おまつり」実行委員、「日韓文化交流会議」委員、現代韓国朝鮮学会会長、比較文明学会副会長などを歴任した。主な著書に『韓国は一個の哲学である』『歴史認識を乗り越える』(以上、講談社)、『心で知る、韓国』(岩波書店)、『創造する東アジア 文明・文化・ニヒリズム』、『いのち』は死なない』(以上、春秋社)、『朱子学化する日本近代』『北朝鮮とは何か』(以上、藤原書店)、『入門 朱子学と陽明学』『新しい論語』『朝鮮思想全史』『京都思想道通』『弱いニーチェ』(以上、筑摩書房)、『群島の文明と大陸の文明』『韓国の行動原理』(以上、PHP研究所)などがある。



【研究事業：歴史学ブランチ】

ミニシンポジウム

「前近代朝鮮における大陸外交の「型」形成
—そしてファクターとしての日本—」

2024年12月15日

九州大学では、人文科学研究院・比較社会文化研究院の歴史学系教員を運営委員として毎年12月に九州史学会を開催し、その1部会として全国的にも珍しい朝鮮学部会をおいている。九州大学韓国研究センター韓国国際交流財団助成事業〈「世界史」の中の韓国—その構造変動に関する総合的研究—〉の歴史ブランチでは、韓国前近代の国際関係の意義を新たな視点で捉え直し、これを社会に問うべく、一般教養書の刊行をめざしているが、その準備作業の一環として、標記のシンポジウムを朝鮮学部会の「特集」として共同開催した。そこでは、古代、中世、近世の各時代の事象をとりあげ、大陸王朝との関係に特徴的な「型」やパターンが生み出される様相を模式的に解説し、その背景として特に日本との関係に注目した。

- ・日 時：2024年12月15日（日）
- ・場 所：九州大学伊都キャンパス イースト1号館 A118教室
- ・共 催：九州史学会朝鮮学部会
- ・後 援：韓国国際交流財団

□プログラム

- | | |
|------|--|
| 第1報告 | 井上 直樹（京都府立大学文学部 教授）
「二正面作戦を回避せよ—古代東アジア世界における高句麗の外交・軍事戦略—」 |
| 第2報告 | 森平 雅彦（九州大学人文科学研究院 教授）
「はじき出されず、呑み込まれず—モンゴル帝国の覇権と高麗—」 |
| 第3報告 | 鈴木 開（明治大学文学部 准教授）
「不都合な真実—朝鮮・後金関係と「交隣」の行方—」 |

井上報告では、西方に大陸の諸王朝、南方に百済、新羅、倭といった競合勢力を控えた高句麗が、4世紀の広開土王以来、西方と南方で同時に緊張状態に陥ることを避ける二正面作戦回避策を採用して、繰り返し襲ってくる対外的危機を250年近く克服し続け、しかしそれが7世紀半ば、唐・新羅連合の成立によって破綻するとともに滅亡していく過程を描いた。

森平報告では、13世紀半ばから14世紀半ばにかけて、ユーラシア大陸を席卷したモンゴル帝国に服属した高麗が、生き残りをかけて王室間の通婚、王子の皇帝親衛隊（ケシクテン）参加、国王のモンゴル高級官職（征東行省丞相）獲得など、モンゴルの体制への一体化による地位上昇を志向する一方、独自の王国体制や支配層の存立基盤が解体されて完全に吸収・一体化されるのを回避する駆け引きを展開したこと。帝国への内部化／帝国からの外部化という相反するベクトルを同時に促進する駆け引き材料として、モンゴルに対し

て敵性勢力であり続けた日本の「脅威」をたくみに利用したことを図式化して示した。

鈴木報告では、冊封・朝貢関係の「典型」とみなされがちな清と朝鮮の関係が、清の前身である17世紀前半の後金の段階では成立しておらず、当初は「交隣」関係が相互の交渉を通じて構築されていったこと。その際、朝鮮側では同時代の日本や琉球との関係を参照してそれとの整合性をとりつつ仕組みを整えていったこと。そしてその「交隣」関係は、後世君臣関係を結んだ朝清両朝の立場から、またそのような君臣関係に注目する研究者の観点からは「不都合」なものだったゆえに、歴史記録や研究のなかで不可視化される傾向にあったことを論じた。

個別発表の終了後にはフロアの聴衆と質疑応答をおこなったうえで、各報告者が朝鮮の大陸王朝との関係の捉え方について総括コメントを述べて閉会した。

【国際学術大会】

「九州地域韓国学拡散の現況と課題」

2024年12月24日

九州大学韓国研究センターでは、2024年12月24日（火）に仁荷大学校国際関係研究所と九州韓国研究者フォーラムとの共催で国際学術大会を開催した。

今回の国際学術大会は、仁荷大学校国際関係研究所と九州大学韓国研究センター及び九州地域の韓国学研究者たちとの持続的な学術交流の幕を開ける出発として、「九州地域韓国学拡散の現況と課題」というテーマで行われた。

- ・日 時：2024年12月24日（火）
- ・会 場：共創館Bカンファレンス
- ・使用言語：日本語・韓国語（日韓同時通訳提供）
- ・総合司会：木村 貴（福岡女子大学 教授）
- ・共 催：九州韓国研究者フォーラム、仁荷大学校国際関係研究所
- ・後 援：韓国学中央研究院

□プログラム：

13：00～13：30 開会式

- ・開会の辞：李 振翎（仁荷大学校国際関係研究所長）
- ・歓迎の辞：出水 薫（九州大学韓国研究センター長）
- ・事業紹介：邢 思遙（仁荷大学校）

「韓国学拡散の現況と課題：仁荷大学 K 学術拡散事業を中心に」

13：30～15：10 第1セッション

日韓協力の中の韓国学：現況と発展方向

司会：金 ソンジン（徳成女子大学）

- ・発表1 宋 錫源（慶熙大学校）

「日韓協力の必要性と可能性」

討 論：緒方 義広（福岡大学）

- ・発表2 高 選圭（福島学院大学）

「韓国の IT・デジタル政府技術とグローバル共有」

討 論：池田 大輔（九州大学）

- ・発表3 金 スウォン（韓国外国語大学）

「韓国の博物館外交」

討 論：溝内 亮祐（北九州市立大学）

15：10～15：30 コーヒーブレイク

15:30 ~ 17:10 第2セッション

九州(地域)・社会と文化・次世代の課題

司会：辻野 裕紀(九州大学)

・発表1 新里 喜宣(長崎外国語大学)
「大韓民国第20代大統領選挙の巫俗言説」

討 論：李 源東(仁荷大学校)

・発表2 出水 薫(九州大学)
「[ポスト1965年体制]の定義と時期区分について：日本語圏での概説書の検討」

討 論：李 承宰(仁荷大学校)

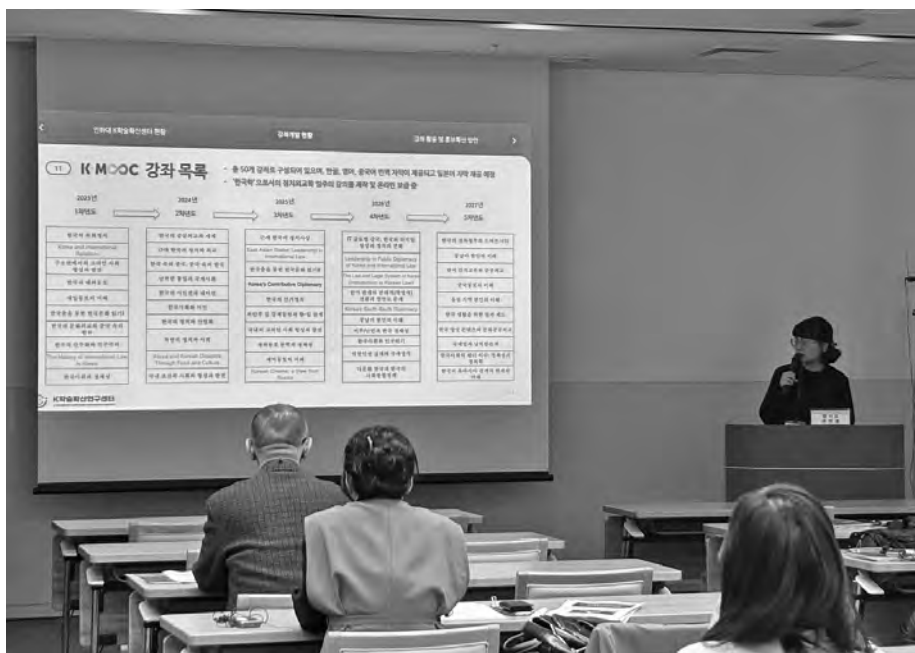
・発表3 申明直(熊本学園大学)
「地域循環共生圏と持続可能な多文化共生農村：
ローカルフェアトレードによるオルタナティブ公共圏の構築」

討 論：ヤン・ミナ(中央大学校)

17:10 ~ 17:30 閉会式

・閉会の辞：出水 薫(九州大学韓国研究センター長)
李 振翎(仁荷大学校国際関係研究所長)

今回の国際学術大会を共催した、仁荷大学校国際関係研究所の李振翎所長、九州大韓国研究センターの出水薫センター長、九州韓国研究者フォーラムの代表を務めている平井一臣先生の開会の辞・歓迎の辞とともに始まった開会式では、立命館アジア太平洋大学・総田芳憲先生の祝辞に加えて仁荷大学校国際関係研究所側の事業紹介も行われ、韓国学拡散のために展開されてきた様々な活動の現況と課題を共有することができた。



開会式に続いて行われた2つのセッションは、各々「日韓協力の中の韓国学：現況と発展方向」と「九州（地域）・社会と文化・次世代の課題」というテーマで進められた。各セッションでは韓国側と日本側の発表者及び討論者による研究報告と討論が行われた。日韓関係や日韓協力に関する総合的な観点の議論だけでなく、文化財やITに至る多様なテーマが提示され、それに対する討論を通じて極めて興味深く示唆に富んだ意見が交換される貴重な時間であった。特に、九州という地域だからこそできる韓国学の可能性に対する認識を、当日の学術会議での発表及び討論を通じて参加者皆で共有できたことは、今回の共同学術会議における最も大きい収穫だと言える。

九州地域の韓国学研究者との学術交流に対する期待と定期的な学術会議の開催を約束しながら、今回の国際学術大会は成功裡に終わった。



九州地域 韓国学拡散の現況と課題

共創館 B カンファレンス

2024年12月24日(火)/13:00 - 17:30

使用言語: 日韓同時通訳

共催: 仁荷大学校国際関係研究所、九州大学韓国研究センター、九州韓国研究者フォーラム

後援: 韓国学中央研究院

区分	時間	内容
<開会式>	13:00 - 13:30	<全体司会> 木村真 (福岡女子大学) <開会の辞> 李錫禧 (仁荷大学校国際関係研究所長) <歓迎の辞> 出水薫 (九州大学韓国研究センター長) 平井一臣 (九州韓国研究者フォーラム代表) <祝辞> 総田芳憲 (立命館アジア太平洋大学) <事業紹介> 邢思通 (仁荷大学校) - 韓国学拡散の現況と課題: 仁荷大学校K学術拡散事業を中心に
<第1セッション> 日韓協力の中の韓国学 : 現況と発展方向	13:30 - 15:10	<司会> キム・ソンジン (徳成女子大学校) <発表> 宋鐘源 (慶熙大学校) - 日韓協力の必要性と可能性 高蓮圭 (福島学院大学) - 韓国のIT, デジタル政府技術とグローバル共有 キム・スウォン (韓国外国語大学校) - 韓国の博物館外交 <討論> 鎌方義広 (福岡大学) 池田大輔 (九州大学) 溝内亮祐 (北九州市立大学)
<コーヒーブレイク>	15:10 - 15:30	
<第2セッション> 九州(地域)・社会 と文化・次世代の課題	15:30 - 17:10	<司会> 辻野裕紀 (九州大学) <発表> 新里書宣 (長崎外国語大学) - 大韓民国第20代大統領選挙の巫俗言説 出水薫 (九州大学) 「ポスト1965年体制」の定義と時期区分について: 日本語圏での概説書の検討 申明直 (熊本学園大学) - “地域循環共生圏と持続可能な多文化共生農村: ローカルフェアトレードによるオルタナティブ公共圏の構築” <討論> 李潭東 (仁荷大学校) 李承宰 (仁荷大学校) ヤン・ミナ (中央大学校)
<閉会式>	17:10 - 17:30	<開会の辞> 李錫禧 (仁荷大学校国際関係研究所長) <記念撮影>

【研究事業：文学 / 言語学ブランチ講演会】

兼若逸之先生講演会

チェサ
「韓国の祭祀文化とその変容」

2025年1月21日

九州大学韓国研究センターでは2025年1月21日（火）に、兼若逸之先生（元東京女子大学教授）をお招きして、講演会「韓国の祭祀文化とその変容」を開催した。

今回の講演は韓国の祭祀文化をテーマとして扱ったもので、祭祀の構成要素および実際に祭祀が行われる順序、祭祀における規則などについての詳細な紹介が行われた。それとともに、韓国の族譜や伝統的な作名に用いられてきた規則など、祭祀を含めて幅広い文化的な題材も扱われた。また、今日の韓国の祭祀文化が見せている多様な変化の様相に関する議論では、単に祭祀文化だけでなく、韓国の社会および文化が経験してきた変化の方向に対する批判的な洞察はもちろん、これからの変化の行方に関する示唆についても貴重な意見を伺うことができた。

平日の遅い時間にかかれた講演会にもかかわらず、韓国語および韓国文化に対する豊富な経験と高い関心を持っている方々が多数参加し、深みのある講演が可能であった。

- ・日 時：2025年1月21日（火）
- ・場 所：JR博多シティ10階会議室
- ・講演者：兼若 逸之先生（元東京女子大学教授）
- ・司 会：辻野 裕紀（韓国研究センター副センター長）
- ・主 催：九州大学韓国研究センター
- ・後 援：韓国国際交流財団

□講演者プロフィール

兼若 逸之（かねわか・としゆき）

国際基督教大学卒業、延世大学校文科大学院博士課程修了、文学博士。誠信女子大学校副教授、二松学舎大学助教授を経て、東京女子大学教授を務める。現在、韓国文化院世宗学堂運営委員。NHK テレビ、ラジオ「ハングル講座」担当、2012年韓国政府よりハングル発展有功者として宝冠文化勲章受勲。ハングル 1000 万人運動を提唱。





韓国の祭祀文化とその変容

〈チェサ〉の

定員70名
先着順

2025年1月21日(火) 会場 JR博多シティ10階会議室
19時～21時(開場:18時30分)



講師
兼若 逸之先生(元東京女子大学教授)

Profile

国際基督教大学卒業、延世大学校文科大学院博士課程修了、文学博士。誠信女子大学校副教授、二松学舎大学助教授を経て、東京女子大学教授を務める。現在、韓国文化院世宗学堂運営委員。NHKテレビ、ラジオ「ハングル講座」担当、2012年韓国政府よりハングル発展有功者として宝冠文化勲章受勲。ハングル1000万人運動を提唱。

司会: **辻野 裕紀**(九州大学韓国研究センター副センター長)

主催:九州大学韓国研究センター 後援:韓国国際交流財団

申込先:URL若しくはQRコードよりお申し込みください URL:<https://forms.gle/Vs2z1AZ72bJK9q3a6>

問合せ先:九州大学韓国研究センター TEL:092-802-2027 Email:intlkrcks.uok@jimu.kyusyu-u.ac.jp



※本講演会は、韓国国際交流財団による助成を受け現在進行中の研究事業『『世界史』の中の韓国:その構造変動に関する総合的研究』の一環として開催されます。

【研究事業：経済学ブランチ研究会】

「世界史における韓国経済：過去・現在・未来」

2025年1月25日

2025年1月25日（土）に、九州大学韓国研究センター主催の研究会を開催した。

本研究会は、2023年度から遂行されている本センターの研究事業「『世界史』の中の韓国—その構造変動に関する総合的研究」における経済学ブランチプロジェクトの一環として開催されたものである。

韓国農業の変容と現代の諸相をメインテーマとして行われた本研究会では、韓国における茶産業とその振興を目的とする教育に関する報告、及び、韓国の穀物自給率の低下とその対策についての報告がなされた。

コメンテーターや、出席者の甲斐論（中村学園大学 顧問）、藤川昇悟（西南学院大学 教授）との間で、韓国農業の現状について、活発な議論が交わされた。また、今後の研究についても建設的な意見交換がなされた。

- ・日 時：2025年1月25日（土）
- ・会 場：九州大学西新プラザ
- ・司 会：水野敦子（九州大学大学院 経済学研究院 准教授）
- ・後 援：韓国国際交流財団

□プログラム：

14：00～14：10	開会
14：10～15：10	第1報告 「韓国における茶の高付加価値化と茶文化教育」 ・田村 善弘（長崎県立大学 教授）
15：10～15：30	休憩
15：30～16：30	第2報告 「韓国における食糧作物の育成政策と課題」 ・黄 在顕（韓国東国大学校 教授）
16：30～16：50	休憩
16：50～17：50	コメント・討論 ・深川 博史（東海大学 教授）
17：50～18：00	閉会

【研究事業：教育学ブランチ研究会】

「1990年代以降の日韓の教育政策を世界的潮流の中に読み解く」

2025年2月16日

2025年2月16日（日）に、九州大学韓国研究センター主催の研究会をオンラインで開催した。

本研究会は、2023年度から遂行されている本センターの研究事業「『世界史』の中の韓国—その構造変動に関する総合的研究」のなかで、教育学ブランチの企画による第4回の研究会として開催された。今回の研究会では、芝浦工業大学の田中友佳子先生と韓国昌信大学の李河姫先生による報告が行われ、指定討論者の長崎外国語大学の朴永奎先生、九州産業大学の鄭修娟先生からの問題提起を皮切りにフロアも交えて活発な議論が交わされた。研究会の概要は以下の通りである。

- ・日 時：2025年2月16日（日）
- ・会 場：オンライン開催
- ・司 会：元兼正浩（九州大学大学院 人間環境学研究院 教授）
- ・後 援：韓国国際交流財団

□プログラム：

- | | |
|-------|--|
| 9：00 | 開会（企画者挨拶） |
| 9：05 | 第1報告 田中友佳子（芝浦工業大学システム理工学部 准教授）
「孤児養育の科学化の日韓比較—死亡率から愛着形成へ」 |
| 9：45 | 指定討論 朴永奎（長崎外国語大学 教授）・質疑応答 |
| 10：15 | 休憩 |
| 10：30 | 第2報告 李河姫（昌信大学幼児教育科 助教授）
「中学生の仲間関係における SNS 利用の意味」 |
| 11：10 | 指定討論 鄭修娟（九州産業大学 専任講師）・質疑応答 |
| 11：40 | 全体討論 |
| 12：00 | 閉会 |

第1報告

田中友佳子（芝浦工業大学システム理工学部 准教授）

- ・「孤児養育の科学化の日韓比較—死亡率から愛着形成へ」

第1報告では、孤児養育の「科学化」の内実について医科学、衛生学、栄養学、精神医学などの側面での議論が扱われた。そして「孤児」を通して子ども像や家族、社会を把握することの可能性と限界に関する内容も議論された。また、植民地教育史を韓国の歴史の中でどう捉えるのかという問題意識に基づいた議論も

2024年度韓国研究センター活動

2024年度

- 4月 1日 第7代韓国研究センター長に出水薫教授就任
- 4月16日 第26回 韓国研究センター研究戦略会議
- 4月26日 第27回 韓国研究センター研究戦略会議
- 5月13日 第1回 韓国研究センター委員会（書面回議）
- 5月18日 研究事業（「ポスト1965年体制」研究プロジェクト）：研究会開催（共催：九州韓国研究者フォーラム）
- 5月24日 第28回 韓国研究センター研究戦略会議
- 6月 3日 第2回 韓国研究センター委員会
- 6月11日 第29回 韓国研究センター研究戦略会議（書面回議）
- 6月15日 研究事業（「ポスト1965年体制」研究プロジェクト）：研究会開催（共催：九州韓国研究者フォーラム）
- 7月 1日 第3回 韓国研究センター委員会（書面回議）
- 7月 6日 研究事業（「ポスト1965年体制」研究プロジェクト）：研究会開催（共催：九州韓国研究者フォーラム）
- 7月30日 第30回 韓国研究センター研究戦略会議（書面回議）
- 8月21日 第4回 韓国研究センター委員会（書面回議）
- 8月24日 研究事業（教育学ブランチ）：「1990年代以降の日韓の教育政策を世界的潮流の中に読み解く」研究会開催
- 9月28日 国際学術大会「日韓市民連帯の過去と現在」開催（共催：九州韓国研究者フォーラム、アジアの平和と歴史研究所）
- 10月 7日 第31回 韓国研究センター研究戦略会議（書面回議）
- 10月10日 研究事業（文学／言語学ブランチ）：講演会「韓国語と日本語の似ているところ：古典語、方言、類型論の観点から」（講師：黒島規史）開催
- 10月10日 第5回 韓国研究センター委員会（書面回議）
- 10月19日 研究事業（「ポスト1965年体制」研究プロジェクト）：研究会開催（共催：九州韓国研究者フォーラム）
- 10月26日 研究事業（文学／言語学ブランチ）：講演会「韓国文学の魅力」（講師：古川綾子）開催
- 10月29日 研究事業（「ポスト1965年体制」研究プロジェクト）：国際合同研究会「「ポスト1965年体制」研究—日韓関係の過去と現在」開催（共催：九州韓国研究者フォーラム、ソウル大学日本研究所、ソウル大学国際学研究所）
- 11月 7日 九州大学アジアウィーク企画講演会「K-POPの時代を語る」（講師：山本浄邦）開催（共催：九州韓国研究者フォーラム）
- 11月 9日 研究事業（「ポスト1965年体制」研究プロジェクト）：九州大学アジアウィーク企画シンポジウム「韓国におけるメディアと人権」開催（共催：九州韓国研究者フォーラム、九州大学アジア・オセアニア研究教育機構社会クラスター）
- 11月16日 外国人訪問研究員受け入れ：李ヘレン教授（延世大学）

- 11月22日 第32回 韓国研究センター研究戦略会議
- 11月23日 研究事業（文学 / 言語学ブランチ）：講演会「世界哲学としての韓国美」（講師：小倉紀蔵）
開催
- 12月05日 第6回 韓国研究センター委員会
- 12月15日 研究事業（歴史学ブランチ）：シンポジウム「九州大学と1980年代」開催（共催：九州史学会朝鮮学部会）
- 12月24日 国際学術大会「九州地域韓国学拡散の現況と課題」開催（共催：九州韓国研究者フォーラム、仁荷大学校国際関係研究所）

2025年

- 1月 1日 外国人訪問研究員受け入れ：白晙旻教授（崇実大学）
- 1月14日 第33回 韓国研究センター研究戦略会議（書面回議）
- 1月21日 研究事業（文学 / 言語学ブランチ）：講演会「韓国の祭祀文化とその変容」^{チェサ}（講師：兼若逸之）
開催
- 1月25日 研究事業（経済学ブランチ）：研究会「世界史における韓国経済：過去・現在・未来」開催
- 2月16日 研究事業（教育学ブランチ）：「1990年代以降の日韓の教育政策を世界的潮流の中に読み解く」研究会開催
- 2月17日 第34回 韓国研究センター研究戦略会議
- 2月21日 第35回 韓国研究センター研究戦略会議（書面回議）
- 3月 3日 第7回 韓国研究センター委員会

2024년도 한국연구센터 활동 목록

2024년

- 4월 1일 제7대 한국연구센터 센터장 이즈미 가오루 교수 취임
- 4월16일 제26회 한국연구센터 연구전략회의
- 4월26일 제27회 한국연구센터 연구전략회의
- 5월13일 제1회 한국연구센터 위원회의 (서면회의)
- 5월18일 연구사업 (「포스트 1965년 체제」 연구 프로젝트): 연구회 개최 (공동개최: 규슈한국연구자포럼)
- 5월24일 제28회 한국연구센터 연구전략회의
- 6월 3일 제2회 한국연구센터 위원회의
- 6월11일 제29회 한국연구센터 연구전략회의 (서면회의)
- 6월15일 연구사업 (「포스트 1965년 체제」 연구 프로젝트): 연구회 개최 (공동개최: 규슈한국연구자포럼)
- 7월 1일 제3회 한국연구센터 위원회의 (서면회의)
- 7월 6일 연구사업 (「포스트 1965년 체제」 연구 프로젝트): 연구회 개최 (공동개최: 규슈한국연구자포럼)
- 7월30일 제30회 한국연구센터 연구전략회의 (서면회의)
- 8월21일 제4회 한국연구센터 위원회의 (서면회의)
- 8월24일 연구사업 (교육학 부문): 「1990년대 이후 한일 교육정책과 세계적 조류」 연구회 개최
- 9월28일 국제학술대회 「한일 시민연대의 과거와 현재」 개최 (공동개최: 규슈한국연구자포럼, 아시아평화와역사연구소)
- 10월 7일 제31회 한국연구센터 연구전략회의 (서면회의)
- 10월10일 연구사업 (문학 / 언어학 부문): 강연회 「한국어와 일본어의 비슷한 부분: 고전어, 방언, 유형론의 관점에서」 (강연자: 구로시마 노리후미) 개최
- 10월10일 제5회 한국연구센터 위원회의 (서면회의)
- 10월19일 연구사업 (「포스트 1965년 체제」 연구 프로젝트): 연구회 개최 (공동개최: 규슈한국연구자포럼)
- 10월26일 연구사업 (문학 / 언어학 부문): 강연회 「한국문학의 매력」 (강연자: 후루카와 아야코) 개최
- 10월29일 연구사업 (「포스트 1965년 체제」 연구 프로젝트): 국제합동연구회 「「포스트 1965년 체제」 연구 - 한일관계의 과거와 현재」 개최 (공동개최: 규슈한국연구자포럼, 서울대학교 일본연구소, 서울대학교 국제학연구소)
- 11월 7일 규슈대학 아시아워크 기획 강연회 「K-POP 시대를 말하다」 (강연자: 야마모토 조호) 개최 (공동개최: 규슈한국연구자포럼)
- 11월 9일 연구사업 (「포스트 1965년 체제」 연구 프로젝트): 규슈대학 아시아워크 기획심포지엄 「한국의 미디어와 인권」 개최 (공동개최: 규슈한국연구자포럼, 규슈대학아시아·오세아니아연구교육기구사회클러스터)
- 11월16일 외국인 방문연구원 수용: 이헬렌 교수 (연세대학교)
- 11월22일 제32회 한국연구센터 연구전략회의

- 11월23일 연구사업 (문학 / 언어학 부문): 강연회「세계철학으로서의 한국미」 (강연자 : 오구라 기조) 개최
- 12월 5일 제6회 한국연구센터 위원회의
- 12월15일 연구사업 (역사학 부문): 심포지엄「규슈대학과 1980년대」 개최 (공동개최 : 규슈사학회 조선헌학회)
- 12월24일 국제학술대회「규슈지역 한국학 확산의 현황과 과제」 개최 (공동개최 : 규슈한국연구자포럼, 인하대학교 국제관계연구소)

2025년

- 1월 1일 외국인 방문연구원 수용 : 백경민 교수 (송실대학교)
- 1월14일 제33회 한국연구센터 연구전략회의 (서면회의)
- 1월21일 연구사업 (문학 / 언어학 부문): 강연회「한국의 제사문화와 그 변용」 (강연자 : 가네와카 도시유키) 개최
- 1월25일 연구사업 (경제학 부문): 연구회「세계사에 있어서의 한국 경제 : 과거, 현재, 미래」 개최
- 2월16일 연구사업 (교육학 부문): 「1990년대 이후 한일 교육정책과 세계적 조류」 연구회 개최
- 2월17일 제34회 한국연구센터 연구전략회의
- 2월 21일 제35회 한국연구센터 연구전략회의 (서면회의)
- 3월 3일 제7회 한국연구센터 위원회의